

収税官ノ規則

シーホルト寄贈ノ内



1603





地租収入官事務章程(專)地租簿記法並地租及地租帳扱方ニ関ス

渡辺廉吉譯

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

第一附録

第一條 收租帳並請取帳ノ制

收租帳既ニ簿記ニ着手シタル分ハ追テ何分ノ改正アルマデ此
前ノ通り取扱ベシ

新收租帳ハ悉ク第一附録甲ノ雛形ニ照準シ簿記スベシ

此雛形ニ從ヒハ收租帳ハ地租帳ト全ク連続シ地租帳各計筭ハ

又收租帳ノ各計筭トナリ甲ノ番号ハ番号ト符合シ甲ノ總計ハ

乙ノ總計ト同一ナルヲ得ベシ

納租者請取帳モ亦右ノ番号ト符合スルヲ要ス

第二條 前條ノ統

一人ニテ各号ノ地租ヲ納ムル者アル寸ハ地租收入官ハ收租帳

大正

各番号ノ勘定ニ其上書ノ傍又ハ其下ニ又何号ノ勘定ヲ見合ス
ベシト標記スマシ又見覧ニ便ナラシカ為メ一覽表ヲ收租帳ニ
附録シ各納租者幾何ノ金高ヲ自身ノ為メニ納メ又幾何ノ金額
ヲ他人ノ為メニ納メタル等一目了然タル様明示スルモ可ナリ

第三條 收租帳及其計筭

格別ノ事情アリ不得止ル寸ハ地租收入官收租帳ノ順号ニ從ヒ
各納税者ノ納ムベキ地租ヲ一計筭ニ取纏ムルノ權ヲ有ス又一
人ニシテ自身及他人ノ地租ヲ一集ニ納ム者アル寸ハ自他各号
ノ地租ヲ一纏ニ計筭スルモ妨ナシ但シ第一附録乙ノ雛形ヲ見
テベシ

第四條 前條ノ続

前條ニ詳示スル如ク第一附録乙ノ雛形ニ照準シ收租帳ノ取扱
フオハ次ノ件々ヲ注意スベシ

(第一) 前條ノ如ク自他ノ地租ヲ一纏ニスル寸ハ收租帳中ニ地
租帳各計筭ノ合計ヲ記入シ且右合計ノ生シタル各計筭ノ番
号ヲ雛形ノ如ク特別ニ明示スベシ

右地租帳各計筭ノ通計ハ乃チ收租帳計筭ノ金高トナル故ニ
地租ノ増減ナル寸ハ増減シタル地租ヲ右金高ヨリ増減シ且
地租ノ番号ヲ傍ニ記スベシ

(第二) 地租帳各号ノ計筭ヲ收租帳ニ取纏ムルノ義ハ唯親族又
ハ代人タルノ權ヲ有スル者妻子兄弟等共有者ニノミ限ルベシ
故ニ收租官ハ計筭取纏前ニ納租者ノ身分ヲ詮索シ謬誤不都
合等ナキ様注意スマシ但シ地租收入官地租帳簿掛ヲ違フモ
ナル寸ハ又該頁ニモ諮詢スベシ

第五條 收租帳並請取帳ノ扱方

地租帳ニ照準シ徵收シタル地租ノ正実ナラシカ為メ收租帳並

大 義 旨

地主請取帳ノ金額ト地租帳各計算ノ有高及總計ト精細符合スル様注意スベシ又各地主地租ノ増減ヲ記スルニ必ズ地租帳一簿掛ノ確証(第六條)ニ照準シ取扱ベシ即チ旧地主ノ租額ハ新地主ノ地租帳ニ附加シ而シテ旧地主ノ地租帳ヨリ其租額ヲ減少シ且ツ毎納税期必ズ地租額數ヲ詳記シ其外地主ノ交換シタル月日ヲ明示スベシ但シ詳細ノ事ハ第一附録ニ詳ナリ

第六條 帳簿取扱ノ基礎並地租増減月表

收租官地租帳簿掛ヲ兼務スル寸ハ地租帳ニ照準シ自ラ地租帳及請取帳ニ地租増減ヲ記入スベシ收租官若シ地租帳簿掛ヲ兼務セザル寸ハ地租帳簿掛ヨリ納税月末毎ニ一千八百三十九年三月十一日頒布ノ成規ニ基キ第二附録ノ雛形ニ照準シ製シタル前納税月ヨリ後納税月ノ間ニ生シタル各地租増減表ヲ請取ベシ此増減表ハ各地主ノ地租増減ヲ詳示シ地主交換ノ原由ヲ

明記シ且ツ其増減年數料ヲ記録スル者ナリ尙詳細ノ事ハ收租官其雛形及雛形ノ備考ヲ見合スベシ

但シ納税月間ニ地主ノ交換更ニナキ寸ハ地租帳簿掛收税官ニ其確証ヲ渡スベシ

此地租帳簿掛月表並無交換確証ハ收租官及地租帳簿掛ノ收租帳及請取帳ヲ取扱フニ其基礎及証拠トスベシ又收租官ハ右月表並無交換証ヲ別冊ニ詳細記録スベシ

區戸長右月表オヲ見ント欲スル寸ハ一千八百五十四年七月二日ノ布達(布達全層ノ第一百八十葉目)ノ主意ヲ遵守シ之ヲ許可スベシ

第七條 收租帳ノ検査及過不足ノ所分

收租官ハ少クモ毎年一回收租帳ヨリ收租要略ヲ製シ其中一各号計算ヲ集記シ且ツ之ヲ通計シ以テ詳細検査シ且ツ其中ニ通

計成ルノ月日ヲ附記シ以テ第六條ノ別冊ニ記録スベシ
古ノ方法ニ因リ査訂シ收租帳ノ精筭金高ト地租帳結筭頁数ト
相異ナルカ又ハ其他ノ場合ニ於テ兩帳間ニ差異生ズル寸ハ
地租收入官地租帳簿掛立會ノ上西帳ヲ精密ニ比較シ且之ニ對
係スル各地地主地租増減ノ場所ヲ丁寧ニ検査シ以テ差異ノ生ス
ル原因ヲ探討スベシ若シ其理由判然セザル寸ハ速ニ其旨ヲ租
稅検査局ニ開申スベシ然ル寸ハ該局検査訂正ヲ為スベシ
第八條 地租帳簿掛ノ各地地主地租ノ増減ヲ收租帳ニ記入スル
地租帳簿掛地方收租官ノ擔任スベキ收租帳ニ地租ノ増減ヲ記
入シ或ハ地方收租官ノ遵守スベキ別種地租徵收表ヲ整頓スル
ニハ速テ何カノ沙汰アルマデ地主相對相談ノ落着ニ從フベシ
地主相對ノ相談整時ハ速ニ其旨ヲ租稅検査局ニ申報スベシ

又地租帳簿掛右事務ヲ怠リ又ハ施行セザル寸ハ直ニ其旨ヲ届
クベシ收租官若シ右報知ヲ怠ル寸ハ地租帳簿掛ノ怠惰等ハ過
失ヨリ生スル損害ヲ保証スベシ(第十條ヲ見ルベシ)
第九條 收租帳掛紙ガ新製
地租收入官必ハ租稅検査局ノ布達カ又ハ其准許ニ準拠シ新製
スベシ故ニ時宜ニ因リ該局ニ其伺ヲ出シ以テ此改正ニ緊用ナ
ル掛紙ヲ請取ルベシ
第十條 簿記上一般ノ心得並検査各換ノ費用各收租官ハ收租
帳立ニ請取帳ヲ簿記スルニ克規則ヲ遵守シ明白ヲ主旨トシ必
ス清淨ニ昏記シ且ツ細密ニ記簿スベシ若シ万一收租官ハ簿記
方完全セザルヨリ全員ノ差異生シ為メニ收租帳ノ検査又ハ昏
換ヲ要シ且其罪收租官ニ在リテ他人(例ハ第八款ノ地租帳簿掛
ノ如キ)ニ在ラザル寸ハ收租官自ラ其損害且ツ検査各換ボノ費

用ヲ償ヒ或ハ補フベシ

第十一條 收租官ノ干預スベキ租稅檢査局事務並ヒニ地租事務

租稅檢査局ニ於テ時々施行スル地租帳及收稅帳ノ檢査スル地租帳ノ制度及地租條例ニ関スル事務ニ付諮問ヲ受ル寸ハ收租官之ヲ辨解シ且ツ其他該局ノ事務ヲ補助スベシ

宅地ノ變更(新築修繕開墾築圍)アリ或ハ無稅地有稅地ニ變シ又

ハ其外收稅ノ交換ニ関涉スル事件生スル寸ハ收租官其旨ヲ租

稅檢査局ニ申報スベシ但シ右件々收租官ニ報知アレハ速ニ該

局ニ届申スルヲ定則トス若シ收租官其定則ニ戾リ報知ノ期ヲ

誤ル寸ハ右ニ付減損スル稅額ヲ償フベシ(一千八百五十年八月

十六日ノ大政官布達ヲ見合スベシ)布達全卷第六百六葉ヨリ詳ナリ)

第十二條 地主証券ノ証明

地面ノ賣買又ハ授受アリ其地面今誰ニ屬スルヤ不分明ナルガ故ニ其前一週年向右地面ヲ所有シ且納租シタル者ハ賣主ナル

カ賣物遺授人ナルカ又ハ受取人ナルカ其証拠ヲ明示スベキ寸

ハ一千八百四十二年布達全卷七十三葉目ニ在ル賣入規則第百

六十款ボヲ見ルベシ(收租官ハ唯是迄納稅シタル者ノ姓名ヲ確

証スルノ義務ヲ有ス

其証拠ハ收稅帳及ヒ請取帳ニ由ルヲ法トス然レハ右兩帳ハ其

各号計案ヲ明細詳記セザル者ナルガ故ニ收稅官若シ地租帳簿

掛ヲ魚務セザル寸ハ唯收租帳ノ總高ヲ悉ク納メタルヤ人ハ其

中何円納メタルヤ又ハ更ニ納メザルヤヲ証示スベシ

地主不分明ナル各地面ノ地租總計收稅帳總高中ニ悉ク含有ス

ルヤ否ノ保証ハ地租帳簿掛ノ責任ニ歸ス

第十三條 手数料

前數條ニ記載スル事務ニ付徵集スル收租官ノ手数料ハ仮ニ制定シタル手数料制限ニ準拠シ收入スベシ但シ地主ノ請求ニ因リ地租ノ増減ヲ記シ又ハ收租帳或ハ租額ヲ取調又ハ收租帳ヨリ校合シ又ハ收租帳ヨリ租額ヲ証示シ信印ヲ附共スルモノノ手数料ハ一千八百五十三年十二月六日發行ノ手数料規則第三十九條ニ従フベシ其外右規則第十七條並第三附録ヲ見合スベシ其他直税徵收事務ニ付テハ一千八百五十四年六月二日ノ布達其他ノ手数料ニ就テハ其第九章ニ従フベシ但シ(同布達第七十三條ノ公務(此事務章程第六條ノ區戸長ニ帳簿ノ開闔ヲ許可スル)ノ事務之ニ屬ス)ニシテ第七十三條ノ官制ヲ悉ク又ハ一部他人(第八條ノ如ク地租帳簿)ニ委スル寸、別ニ手数料ヲ要求スベカラズ

第十四條 諸入費

筆墨紙封蠟印肉紙~~封紙~~紙~~封紙~~ノ諸入費ハ收租官自ラ支消シ又租人ノ請求ニ因リ事務ヲ施行シ右諸品ヲ用エルトモ之カ為メ成規手数料ノ外決シテ過分ニ徵收スベカラズ郵便税並飛脚賃ノ支出ハ其金額ヲ證明シ本人ヨリ徵收スベシ

收租帳昏換ノ封紙ハ(第九條)回費ヨリ支出スベシ但シ收租官制規ニ背キ簿記法ヲ誤リ又ハ其他ノ過失ニ因リ封紙ヲ要スル寸ハ例外トス

第十五條 旧規則ノ遵奉

收租帳請取帳及其他地租ニ関スル簿記法條例ハ旧ニ仍ルニ一千八百五十四年六月二日ノ布達第十九條二十一條二十二條二十三條ノ直税徵收規則(其外第九條第十條第十一條第十二條比較スベシ)ハ送前ノ通り施行スベシ

一千八百三十九年九月九日發行ノ地租帳簿掛職制章程ハ廢止

ス

一千八百六十一年

二月九日

ワイマル府

大藏省

羅 柳

形 聯

形 聯

遊 遊 遊 遊 遊 遊 遊 遊 遊 遊
此 此 此 此 此 此 此 此 此 此
形 形 形 形 形 形 形 形 形 形
特 特 特 特 特 特 特 特 特 特

第一附錄

地租收入帳

雛形

備考

雛形甲、收稅帳勘定記号、地租帳勘定
 記号ト同一ナリ但シ右地租帳勘定記号
 ハ雛形乙ニ於テ收稅帳ノ噸号トナル故
 ニ雛形甲ノ地租増減記入、明示スル
 記号、地租勘定ノ記号ニシテ雛形乙ノ
 部ハ收稅帳ノ記号ナリ

雛形甲

地租勘定第七十三号

中村権助

記地
号租
帳

租額

タアレル ガクセン フェンニキ

六八〇

— 6 11

— — 4

— 7 3

— 1 6 $\frac{3}{4}$

— 5 8 $\frac{1}{4}$

— 1 6 $\frac{1}{2}$

— 7 2 $\frac{3}{4}$

— — 3 $\frac{1}{4}$

— 6 11 $\frac{1}{2}$

— 1 6 $\frac{1}{4}$

— 5 5 $\frac{1}{4}$

是、第六十五号地面買入ルニ由リ増額

是、千八百五十九年二月一日ノ租額

是、^{地面}賣却スルニ由リ第六十五号ノ部ニ減額

是、千八百五十九年五月一日ノ租額

是、^{地面}買入ルニ由リ七十九号ヨリノ増額

是、千八百五十九年十月一日ノ租額

是、^{地面}賣却スルニ由リ第一号ニ減額

是、千八百五十九年十一月一日ノ租額

是、地租改正ニ由リ減額

是、千八百五十九年十一月一日ノ租額

一月 二月 四月 五月 七月 八月 十月 十二月
二期 一期 一期 一期 一期 一期 二期

年

済 済 済 済 済 済 済 済

済 済 済 済 済 済 済 済

済 済 済 済 済 済 済 済

一八五八

一八五九

一八六〇

一八六一

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

至時
昔時
計
一
一

減租

名	勘定記号	收租帳	地租号帳	納租人
力	六五	七四八	一	賣買三由 中村 千八百五
力	七三	六八〇	一	秋山 千八百五
力	七九	七四〇	一	中村 千八百五
力	七三	六八〇	一	國財 千八百五
一	一四	三〇一	一	吉川 千八百五
一	四〇	三六六	一	(1) 高橋 千八百五 (2) 伊澤 千八百五
七号街路ノ分	一			改正ニ由リ 租税検査
ノ分	三			(二) 安達源藏
ノ分	七三			(ホ) 吉川順一
				(ハ) 山口 千八百五
			合計	額 千八百五
				一年何地 地租

信盛ノ定時此ノ年時新縣
 信盛ノ定時此ノ年時新縣
 十一回ノ定時此ノ年時新縣
 八十七回ノ定時此ノ年時新縣
 八回ノ定時此ノ年時新縣
 (一) 合算

增 租

納租人名並地租増減原由	定地 記租 帳 号 勤	地 租 帳 号	租 額		地 租 増 減 手 数 料		
			タ ア レ ル	ゴ イ セ ン	タ ア レ ル	ゴ イ セ ン	フ ズ シ セ
賣 買 三 由リ 中 村 権 助 千八百五十九年一月十一日附、賣買証書アリ	七三	六八〇	—	—	—	—	〇
秋 山 三 助 千八百五十九年四月二十一日附、賣買証書アリ	六五	七四八	—	ノ	—	フ	ク
中 村 権 助 千八百五十九年八月四日、買入証書アリ	七三	六八〇	—	ノ	—	フ	ク
國 財 本 局 千八百五十九年十月九日附、買入証書アリ	—	三	—	—	—	—	〇
吉 川 順 一 千八百五十八年十二月廿四日附、買入証書アリ	四〇	三六六	—	ノ	6 $\frac{1}{2}$	—	フク
(イ) 高 橋 清 七 千八百五十九年五月十三日附、買入証書アリ	—	二〇一	—	ノ	4 $\frac{1}{2}$	—	フク
(ロ) 伊 澤 八 平 千八百五十九年六月一日附、買入証書アリ	六五	四二五	—	—	2 $\frac{1}{4}$	—	フク
			合計	ノ	6 $\frac{3}{4}$	—	16
改正ニ由リ 租税検査局、指揮ニ準拠シ.....							
(二) 安達源藏 (地券帳三十四号、分)	七八		—	ノ	5 $\frac{3}{4}$	—	—
(ホ) 吉川順一妻 (地券帳二十六号、分)	四〇		—	—	〇	—	—
(ハ) 山口 郎 (地券帳二十五号、分)	二五		—	2	〇	—	—
額 入ゴイセン 〇 $\frac{1}{2}$ フズシセ			合計	4	2 $\frac{3}{4}$		

地租簿記局印

頃号	納	租	人
壹	秋	山	三
二	中	村	権
三	宮	川	七
四	中	村	権
五	安	藤	孫
六	吉	川	頃

- (イ) 地方分局、地券帳四千九十
- (ロ) 區務所 地券帳二十四号
- (ハ) 中村権助 地券帳十八号

第三附録

一千八百五十三年十二月六日頒布裁判所及行政部局手数料條
 條、抜局
 第十七條 公務ヲ施行スルニ決シテ手数料ヲ要求スベカラズ
 蓋シ現今ノ法制中ニ其意明瞭ナレハナリ
 事務相類似スルモ手数料ヲ徴收スルノ明文ナキハ總テ之ヲ
 要求スベカラズ且其他決シテ慣習ニ由ルヲ嚴禁ス
 第百二十九條 一千八百五十九年三月十六日ノ布達手数料條
 削追加ノ改正

(リ) 收税官並地租帳簿掛ノ手数料

(第) 地租増減手数料

(イ) 相続地ノ手数料

面積四分ノ一 アツケル 概一アツケルハ三百平方ル
 ヲ云フ而シテ一ルハ四百三〇

大 券 留

減租

順号	納租人名	地租記号帳	地租帳	租額		地租增減期日
				タ	ル	
壹	秋山三助	六五七四八	—	—	—	甲地野 千八百五十九年二月一日
二	中村権助	七三六八〇	—	—	6 $\frac{3}{4}$	千八百五十九年五月一日
三	宮川七平	七九七四〇	—	—	6 $\frac{1}{2}$	千八百五十九年十月一日
四	中村権助	七三六八〇	—	—	6 $\frac{3}{4}$	千八百五十九年十一月一日
五	安藤孫八	一四三〇一	—	—	6 $\frac{1}{2}$	千八百五十九年一月一日
六	吉川順一	四〇三六六	—	—	6 $\frac{3}{4}$	千八百五十九年七月一日
(イ)	地方分局、地券帳四千九十七号街路、分	—	—	—	3 $\frac{1}{4}$	乙地租 千八百五十九年十一月一日
(ロ)	區務所、地券帳二十四号、分	三	—	—	11 $\frac{1}{4}$	
(ハ)	中村権助、地券帳十八号、分	七三	—	—	6 $\frac{1}{4}$	
		合計	—	—	2	地租增 千八百

第三附録

一千八百五十三年十二月六日頒布裁判所及行政評局手教料條

抜唇

面積半	面積一	面積二	面積五	五ツツケル以上	住家ノ手数料ハ	住家都府ニアレハ	(口) 接地手数料	地價五百 <small>タレ</small> 以上	地價千 <small>タレ</small> 以下	地價五千 <small>タレ</small> 以下	地價一 <small>タレ</small> 以下
ナリテナル時ハ	面積一ツケルナレバ	面積二ツケルナレバ	面積五ツケルナレバ	五ツツケル以上ナレバ	住家ノ手数料ハ	住家都府ニアレハ	(口) 接地手数料	地價五百 <small>タレ</small> 以上	地價千 <small>タレ</small> 以下	地價五千 <small>タレ</small> 以下	地價一 <small>タレ</small> 以下
「ゴロセン」	二	三	五	六	三	四		以下ハ「四」ゴロセン	八	十二	十六

遺物相続ノ義務ヲ有スル者ハ成規ノ半額タルベシ
 但シ多クモ一相続人ニ付「タレ」以上ノ手数料ヲ課スベカラス
 接地ノ部分各地ニ分在スル寸ハ譬其部分ト見做スベキ者モ皆
 之ヲ一地面ト認メ地主ノ交換アルニ際シ一地面丈ケノ手数料
 ナ収入スベシ往時一地面タリシ者後ニ二箇或ハ數箇ニ分レて
 一人ノ所有ニ歸シ而シテ今一集ニ賣拂フ寸ハ之ヲ一地面ト見
 做スベシ然レモ全地ヲ部分シ賣拂寸ハ半枚ニ付特別ニ「ゴロセン」
 手数料ヲ徴收スベシ
 教人ニテ一地方ヲ買寸ハ一地面丈ケノ手数料ヲ收入シ決シテ
 成規ノ金額ヨリ多カルベカラズ
 第百二十七條 第一ハ、ニ、オ、ノ附録ハ又此場ニ施用スベシ
 〔ハ〕地所引渡ノ節若シ受取人引渡人ノ遺物相続ノ権利ヲ有ス

一方「タレ」以上
 二十

ル者ナルオハ遺物相続カ又ハ商業ニ基キトモ更ニ其原因ニ
關セズ地主交換ノ手数料ハ總テ成規ノ特典ニ因ル

〔二〕遺物相続人二人アリ遺物ヲ互ニ分配スルオハ亦地主交換
ノ手数料ハ總テ成規ノ特典ニ由ル但シ此特典ハ初ノ一回
ニ限り二度目分配ノ節ハ此例外トス

〔ホ〕夫妻アリ夫或ハ妻其父母ヨリ地面一箇又ハ數箇ヲ遺受ス
ルオハ遺物相続ノ権利ヲ有スル夫又ハ妻ニ成規ノ特例ヲ
許可シ他ノ一人ニハ成規ノ手数料ノ半額ヲ納シムベシ

第二

〔イ〕専ラ私人ノ請求ニ因リ地券簿地租帳田畑簿收税帳租税勘
定帳ボヲ同列スルオハ手数料

〔ロ〕右各帳簿ヲ同列證明シ其中ヨリ抜替シ又ハ証替ヲ記スル

寸ハ

三ゴセンヲ課スベシ

〔ハ〕私人ヨリ差出シタル地面明細帳ト地租帳ト比較シ相符合
スルノ証ヲ附具スルオハ

二ゴセンヲ課スベシ

〔二〕相続地ニシテ其數六ヶ所以上ナルオハ

〔ロ〕ノ場合ニ於テ一地面以上ナルオハ第一地面ヨリ一地面
ニ付各

半ゴセンヲ課スベシ

〔ハ〕ノ場合ニ於テ一地面以上ナルオハ一地面ニ付各

四分ノ一ゴセンヲ課スベシ

〔ホ〕接地ハ抜替或ハ証替一枚ニ付信印ヲ捺シ

五ゴセンヲ取ルベシ

〔一〕私人ノ差出シタル地面明細層見認ノ信印ヲ捺スル寸〔本
ノ半額ヲ納メシム下シ
收租官地租帳簿掛ヲ兼務セザル寸ハ地租増減手数料ハ收租官
及地租帳簿掛均シク分配スベシ但シ地租帳簿又ハ其抜昏及
地租帳ニ由リ調成スル証昏並信印ノ手数料ハ悉ク地租帳簿
掛ノ有ニ帰セシム〔一千八百三十九年三月十一日ノ布達第十三條
ニ詳ナリ

地租收入官事務章程追加

一千八百六十五年八月三十一日頒布ノ裁判及行政事務ノ手
料條例ニ照準シ一千八百六十一年二月九日布達地租收入官事
務章程ノ第十三條ニ屬スル一千八百五十三年十二月六日公布
ノ手数料條例ヲ廢シ本年一月一日ヨリ附録①ノ規則ヲ發行ス
各收租官皆之ニ準拠スベシ

一千八百六十六年

二月九日

ワイマル府 大藏寮

一千八百六十五年八月三十一日公布ノ裁判及行法事務手数料
條例抜局

但シ各方及其他ノ條款ニ関ス

第十八款 公務ヲ施行スルニ決シテ手数料ヲ要求スベカラズ

蓋シ現今ノ法制中ニ其意明瞭ナレバナリ

事務相類似スルモ手数料ヲ徴收スルノ明文ナキ寸ハ決シテ之

ヲ取立ベカラス其他總テ慣習ニ従フヲ嚴禁ス

收租官及地租帳簿掛ノ手数料

甲地租増加及減少手数料

第百八條

(第一) 地租増減手数料

(イ) 相統地一ヶ所ノ手数料

凡面積四分ノ一アル

ト按百方メ一ナルヲ云フナレバ

ハ「フエンニヒ

大蔵省

凡面積二分の一アルナレバ	一
凡面積一アルナレバ	二
凡面積二アルナレバ	三
凡面積五アルナレバ	五
凡面積九アル以上ナレバ	六
其外	
住家ノ手数料	三
住家都府ニアレバ	四
(口) 接地ノ手数料	
凡地價五百 ^{タレ} 以下ナレバ	四
凡地價一千以下ナレバ	八
凡地價五千以下ナレバ	十二
凡地價一万以下ナレバ	十六

凡地價一万以上ナレバ

二十一

第一イ及ロノ備考

一地面トハ全ク相密着シテ相離レサル一塊ノ地ヲ云フ若シ此地面相続地ナル寸ハ一種ノ地租帳記号ヲ以テ標記シ接地ナル寸ハ譬地租帳中ニ各種ノ記号ヲ以テ標示セラルモ其部分タルノ名称明了ナルヲ要ス但シ地主交換ノ寸ハ接地ノ部分ナルモ若シ相隔絶スレバ又一地面ノ取扱ヲ受ク

一地面各種ノ庭園又ハ各種ノ部分ヨリ成立スルモ法律上ニ於テ各種ノ事情ヲ悉ク詳細明言セサルガ故ニ其區分アラズ

(イ)ノ部ニ記載スル宅地面積ノ計案ハ住屋ノ存スル地面モ共ニ通計シタル者ナリ

第一

(イ) 敷人ニテ一地所ヲ共有スルトモ之カ為メ(第一)ノ制限ヲ超

大 歳 首

ヲ見做スベシ
 成規ニ戻リ十分ニ記載セザル一枚ハ半枚ト見做シ又十行
 ニ足ラザル枚ハ計筈ノ外トス
 第三 地租増減証昏ノ記号ニ別ニ手数料ヲ要求スベカラズ
 第四 遺物相続ノ義務ヲ有スル者ハ第一第二ニ詳示スル定款ノ
 半額ヲ納メシメ多クモ「^ナ」ヲ越スベカラズ且ツ次ノ成規
 ニ照準シ課賦スベシ
 ① 地所引渡ノ節若シ受取人引渡人ノ遺物ヲ相続スル権ヲ有
 スル^ルハ遺物相続ニ由リ又ハ商業ニ基キ受取ルトモ更ニ其
 原由ノ如何ニ関セズ總テ地租増減ノ手数料ハ成規ノ持例
 ニ由ル
 ② 遺物相続人ニ名アリ互ニ遺物ヲ分配スル寸モ亦地主交換
 ノ手数料ハ總テ成規ノ持例ニ從フ但シ此持例ハ最初ノ一

附録

一枚ハ少クモ二十一行タルベシ
 一行ノ字数ハ字数ナシ文章ノ長短ニ隨ヒ一字ニテモ一行

四ノミニ限リ二度目分配ノ節ハ此例ニ非ス

(イ) 夫婦アリ夫或ハ婦其父母ヨリ地面一箇所又教ケ所ヲ遺受スルオハ遺物相續ノ義務ヲ有スル夫或ハ婦ニ成規ノ特例ヲ許可シ他ノ一人ニハ成規手数料ノ半額ヲ納メシムベシ

(第五) 一千八百三十三年四月二十四日頒布ノ條例ニ準拠シ尙現ニ行ルハ夫婦共有地(布達全昏五十一葉目ニ在ル一千八百六十二年四月一日ノ附録ト比較スベシ)取扱手数料ノ制限ハ左ノ如シ

(イ) 夫婦互ニ地面ヲ出シ且ツ裁判所ノ公証ヲ經タル共有地ヲ取扱フ寸或ハ

夫或ハ婦死シ又ハ夫婦離縁シ又ハ夫婦全ク離縁セザルモ寢食ヲ共ニセザルボノ事故生シ為メニ夫婦各出ス所ノ地面ヲ分割スル寸ハ成規手数料ノ四分ノ一ヲ以テ取扱ベ

シ(若シ接地ナル寸ハ分割シタル地面ノ價額ニ由ルベシ但シ十五^百ヨリ多カルベカラズ

夫或ハ婦死亡スル寸ハ唯死者ノ地面ヲ分割スルノミナレバ生者ノ地面ハ右ノ限ニアラズ

(ロ) 地面ヲ共有スル夫婦ノ中一人死亡シ生者再縁セントスルニ際シ其子女ニ地面ヲ遺授スル寸ハ其公証ヲ受タル地面ノ取扱手数料ハ子女其生者ニ對シ実子或ハ継子ナルトモ總テ成規ノ半額タルベシ但シ一人ニ付^多ヨリ多カルベカラズ

(ハ) 夫婦離縁シ其子女ニ地面ヲ分割スル寸子女ノ遺受シタル地面取扱手数料ハ成規ノ半額タルベシ但シ一人ニ付^多ヨリ多カルベカラズ

(ロ) 場合ニ於テ遺物相續者実子ナル寸ハ地面取扱手数料ヲ出

スニ及バズ(何トナレバ実子ハ遺受シタル地面ヲ受取ラズシテ
 手限ヲ定メ其父母ニ托スレバナリ)其手数料ハ実親ヲシテ納メ
 シムベシ但シ其額數ハ(一)ニ記載スル定規ヲ越スベカラズ
 (第六)右地租増減手数料諸規則又ハ地租帳新雛形ニ由ラズ唯合
 地條例ニ準據シ合供シタル地面ノ取扱上ニモ施用スベシ
 然ル寸ハ尙分々中租稅検査局ノ吏員ヲシテ新雛形ト接觸
 スル箇條ヲ斟酌検査シ以テ整頓セシム但シ租稅検査官ハ
 此時地租帳簿掛ノ立會ヲ掌ル
 (第七)地主变换手数料ハ若シ地租帳簿掛收稅官ヲ兼務セザレバ
 收稅官ト平オニ配分スベシ
 但シ太政官地租帳簿掛ニ收稅限表ヲ渡シ地租徵收事務ヲ
 委任スレ寸ハ手数料ヲ悉ク地租帳簿掛ノ所有トセシムル
 可アルベシ

七 其他ノ手数料
 第百九條
 甲 地券帳地租帳收稅帳租稅勘定帳ゴヲ用キ私人ニ示ス手
 料ハ
 一(一)「ア」セントス
 田畑簿ハ
 二(二)「ア」セントス
 古帳簿ヲ開示スルコト六枚以上ナレバ七枚目ヨリ一枚ニ
 付
 四(三)「ア」ミヲ納メシムベシ
 但シ田畑簿ナレバ
 三(三)「ア」ヲ取立ベシ
 備考

帳簿ヲ開示スル寸私人ニ説明スルトモ之カ為ノ丁ノ條規ニ
隨ヒ金負ヲ要求スベカラズ

乙

(第一) 甲ノ部ニ記載スル帳簿ヨリ抜昏シ或ハ証昏ヲ製スルトキ

三、^イ課スベシ

其外

(イ) 收税帳或ハ租税勘定帳ニテ二片以上ナル寸ハ三片目ヨリ

(附録ヲ見ヨ) 一片ニ付

一、^イ課スベシ

(附録) 一片二十四行ヨリ少カルベカラズ但シ數字ニテ一行ヲ成

ス者モ此中ニ算ス

一行ノ字數ハ第百八條第(ハ)ノ附録ニ詳示ス

成規ニ戻リ記載シタル一片ハ半片ト見做シ十二行ヨリ鮮
キ片ハ計簿ノ中ニ入ズ

(ロ) 地租帳ヲ(一)勘定又ハ數勘定枚昏スル寸六地面以上ナル寸

ハ(第百八條第(イ)及(ロ)ノ備考ヲ見ルベシ) 第(七)ノ地面ヨリ

(二) 第百地面ニ至ルマテ各

一、^イ取立ベシ

(三) 地面百ヶ所以上ナレバ各

二、^イ課スベシ

(四) 空地又ハ接地ニシテ許多ノ部分アリ其面積ガ部分毎ニ異

ナル寸ハ三部分ヲ以テ一地面ト見做シ抜昏ノ手数料ヲ徵

收スベシ但シ其部分二箇以下ナレバ之ヲ一地面トシテ

扱ベシ

空地トハ住屋物置庭園屋舖ガノ總稱ナリ

大 義 省

(ハ)地租帳ヲ校昏スル寸地租勘定許多ナル寸ハ二勘定ヨリ以
上ハ(教人共有地ノ地租勘定許多ナルモ)一勘定毎ニ(ロ)部
ニ記載シタル手数料ノ外ニ尙

ニ(三)課シ其上ハ何程勘定許多ナルモ
六(三)ヨリ多カルベカラズ

勘定一ニシテ納税者二名以上ナル寸ハ一人毎ニ右手教科
ノ外ニ尙

一(ア)納メシムベシ

(第二)私人ノ請求ニ因リ唯地租帳ノ條目即チ地券帳ノ記号面積
地租ガノミヲ地租帳ノ噸番ニ隨ヒ校昏スル寸ハ

三(ア)課シ其外一條目毎ニ(新)旧租税帳ノ記号並新旧面積ヲ以
テ一條目トス(第一(ロ)ノ地面割四分ノ一ヲ課シ又地面ノ地
位並地質(地面明細録)ノ一條目ニ付ニハ其半額ヲ課ス但シ

決シテ全數ヲ超越スベカラズ又所有者ノ姓名ヲ記スル寸

ハ一勘定(第一ハ)部ニ付尙

二(ア)納メシムベシ

但シ勘定數多ナル寸ハ少クモ

四(ア)納メシムベシ

若シ又地租帳ノ勘定ニ噸ヒ唯所有者ノ姓名ノミヲ記スル
寸ハ(手数料三(ア)ノ外ニ)

四(ア)収入スベシ

右帳簿ノ校昏オ非常ニ手数料ヲ勞スル寸ハ太政官ニ於テ右成規
ノ員數ヲ増加スルヲアルベシ但シ其高一成規手数料ノ半額ヨ
リ多カルベカラズ

(三)地券ヲ其底寫取ル寸ハ一片ニ付(第一イ)ノ部ヲ見ヨ
三(ア)課シ又

其全文ヲ淨寫スル寸ハ

二課スベシ

(第四) 抜昏ヲ教通請求スル寸ハ(例ハ賣買ヲ廣告スル為メ二通

要スル寸) 茅二通茅三通ボ、抜昏手数料ハ茅十二條茅一ノ

部ニ照準シ取立ベシ

茅一附録

茅十二條茅一ノ條例ハ次ノ如シ

同種ノ抜昏ヲ教多調成スル寸ハ茅一通丈ヶ成規ノ手数料ヲ

課シ茅二通目ヨリハ一枚ダケ十課シ茅二枚目ヨリハ一

片ニ付一課スベシ但シ其金高茅一通ノ手数料ヨリ多カ

ルベカラズ

茅二附録

地券帳地租帳收租帳租額定帳ゴヨリ抜昏スル寸其手数料

五高ヲ明示シス時宜ク附リ茅一通ノ部何枚茅二通ノ部何枚ボノ區分ヲモ記載スベシ

丙

(第一) 私人ノ出シタル地所明細昏(例ハ地面持合ノ為メ地租帳ニ

準拠シ製シタル合地表)ヲ地租帳ト比較スル寸ハ乙、茅一、口、

ハ及乙茅二手数料三分一ヲ課シルクモ

二課シ六課シヲ納メシムベシ

(第二) 乙、茅三ノ部ニ詳示スル帳簿ノ寫ヲ比較スル寸ハ一片ニ付

三課シヲ課シ又事務料トシテ外ニ

一課シヲ納メシムベシ

茅一備考

地租帳異様ノ記簿ナルカ或ハ事務非常ニ繁雜ナルカ又ハ非
常ニ時間ヲ費ス寸ハ其事情ヲ斟酌シ太政官ノ准許ヲ得以テ

乙第一、二及第一ノ部ニ詳示スル手数料ノ半額ニテ増加
セシ又私人ノ出シタル明細帳完全ナラズ或ハ現今ノ地租表
ニ順違セザルガ為メ之ヲ改正(例ハ地面接合ノ為メ出シタル
地面明細表ヲ地租帳ノ新雛形ニ照シ改正スル)シテ附録ヲ加
昏シ又附録ノ証ヲ出ス(地租帳簿掛ノ職務上ニ於テ緊要ナ
ル寸ハ如斯キ教ヲ勞スルガ故ニ太政官ノ准許ヲ得三分ノ二
マテ増加スル)アルベシ
右明細帳ヲ比較検査セントスルニ何分錯雜シテ地租帳ト比
較シ能ハル寸ハ之ガ為メ消費シタル時間ノ報酬ヲ丁ノ規則
ニ從ヒ取立ベシ

第二附録

地主変換ノ節一旦裁判所ノ公証ヲ經由シ收税局ニ出シタル
地所明細帳ノ検査ハ(改正)此中ニ筆寫收税局無手数料ニテ

施行スベシ

乙及丙ノ附録

帳簿ヲ閲覧比較及公証スルに乙ノ部ニ詳示スル成規手数料
ノ外ハ一切徴收スベカラズ丙ノ部モ乙ノ部ニ異ナルヲナシ
其他又表及筆墨紙ボノ代價ヲ取立ベカラズ

丁 第百八條及第百九條ノ乙丙外ノ事務並私人ノ請求ニ由リ
車輛ヲ説明スル寸ハ(尤地租帳簿掛及收税官ノ職務上為スベ
キ事件ノミニ限ル)之ヲ為メ消費スベキ至当ノ時間並消費シ
タル時間ニ概リ一日八時間ナル寸ハ(タテシテ)徴收スベシ但シ
右時間ヨリ少ク又多キ寸ハ其場合ニヨリ(手数料條例第百六
條ニ詳ナリ)

乙ヲ増減スルコトアルベシ
附録 第百十六條ノ明文ハ左ノ如シ

手数料ノ全高往復及事務ノ時間ニ由リ確定セラルル寸ハ一
向未滿ヲ半時間トシ又一時間以上ノ半時間ニ滿カル者ハ
ニ勘定外トスベシ

戊 私人ノ為メ施用スル郵便税飛脚賃並(荷物郵送ノ節)其包
紙ボノ代價ハ特別ニ勘定シ仕拂ハ証昏ヲ出シ請取ルベシ但
シ條例及帳簿ボノ運送賃ハ一帳簿ニ付一半^{ヨリ}宛其証昏ヲ出
サズシテ拂ハシムベシ

都府ノ收税官及地租帳簿掛又ハ地方地租帳簿掛出張スル寸
ハ茅八十條ヨリ茅八十四條ノ條規ニ基キ食料並旅費ヲ約メ
シムバシ其他ノ下役モ(茅百十八條茅四ノ)旅費ヲ課シ且ツ手
教科ヲ丁ノ部ニ明示スル規則ニ照準シ拂ハシムルノ権ヲ有
ス

附録 茅百十八條並四ノ明^スハ左ノ如シ

下役出張スル寸ハ其^所ヨリ隔遠スル^ニ道程ノ遠近ニ因リ旅
費ノ區別存ノ如シ

半時間迄ノ道程ハ 四^ノヨリ

一時間迄ノ道程ハ 六

其上ノ一時間毎ニ 三

帰途ハ旅^費ヲ課スベカラズ

地租收入官事務章程第三追加

近未地租徴収帳及地租帳ヲ收税表ト比較スルニ屢々差異アリ
不都合鮮ナカラガ故ニ事務章程第七條ニ次ノ件ヲ追加
ス

(第一) 第七條ノ各年一回ノ検査ハ遅クモ毎年五月一日コト施行
スベシ

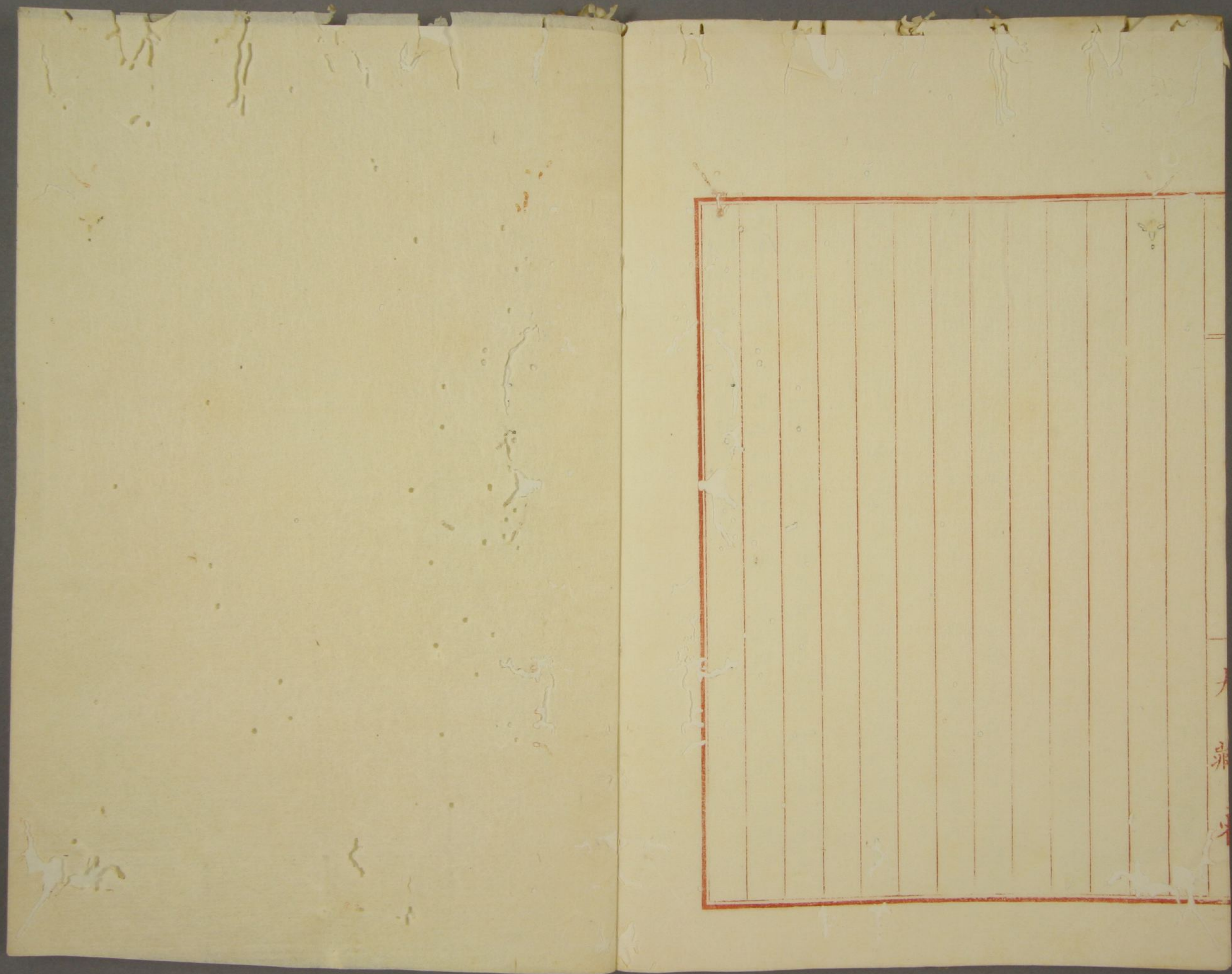
(第二) 右検査ヨリ生ズル差異立其外ノ場合ニ生シタル差異ハ收
租官或ハ地租帳簿掛検査シ遅クモ毎年八月一日マデ整頓
スベシ

(第三) 右差違ノ生スル原由判然タラザル寸ハ送前ノ通り至急其
旨ヲ租税検査局ニ具申スベシ

一千八百七十五年

四月三十日

マイマル府 大藏省



大
鼎
宋

